

かなしん景況レポート



片瀬東浜海水浴場

公益社団法人藤沢市観光協会

目次

景気動向	地域経済(全業種総合)	2
	業種別経済	6
	特別調査	18
お客様景況インタビュー	学校法人 敬愛石川学園 「～家族がつなぐいのちのバトン～」	19
トピックス	「神奈川県金融経済概況(日本銀行横浜支店:2024年6月)のポイント」	3
	「円安の影響:日本経済に及ぼす波紋」	9

調査概要

調査時期	令和6年5月16日から令和6年6月6日まで
調査地域	横須賀市・逗子市・三浦市・三浦郡葉山町・鎌倉市・横浜市・川崎市・藤沢市・茅ヶ崎市 大和市・綾瀬市・高座郡寒川町
調査方法	調査員による面接聞き取り方式又は対象企業先による直接記入方式
分析方法	各質問項目で、「増加」(上昇)したとする企業が全体に占める構成比と、「減少」(下降)したとする企業の構成比との差(D.I.)を中心にして分析を行いました。
回答率	調査先数 当金庫取引先 500先 回答先 473先 回答率 94.6 %

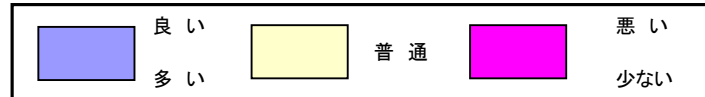
全業種総合天気図

	2023年7～9月	2023年10～12月	2024年1～3月	2024年4～6月	2024年7～9月 来期予想	
全業種総合						
製造業						
卸売業						
小売業						
サービス業						
建設業						
不動産業						
低調	天気図					好調
						
この天気図は、景気指標を総合的に判断して作成したものです。						

全業種総合

～業況改善も2期連続でマイナス水準に、来期は再び低下の見込み～

当期実績(2024年4～6月期実績)
来期予想(2024年7～9月期予想)

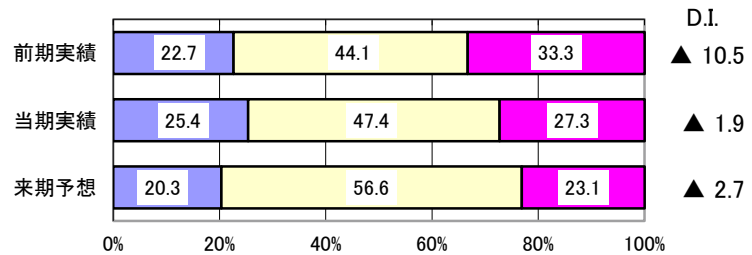


1. 業 況

当期 予想
☁️ ➔ ☁️

当期の業況判断D. I. は▲1.9と、対前期比8.6ポイントの改善となりました。前回調査時における今期見通し(▲5.9)を4.0ポイント上回りました。業種別に見ると全業種で改善となり、建設業は最も改善幅が大きく唯一プラス水準に転じました。来期予想D. I. は▲2.7と、0.8ポイントの小幅低下となる見込みです。

業 況

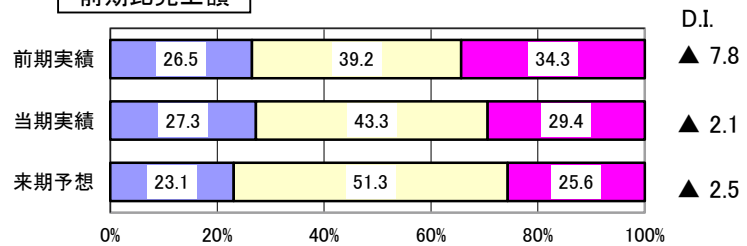


2. 売上額

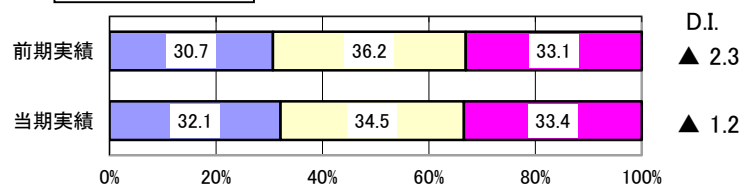
当期 予想
☁️ ➔ ☁️

当期の売上額判断D. I. は▲2.1と、対前期比5.7ポイントの改善となりました。業種別に見るとサービス業、不動産業を除く4業種で改善となりました。卸売業、建設業がプラス水準に転じ、来期もプラス水準を維持する見込みです。来期予想D. I. は▲2.5と、0.4ポイントの小幅低下となる見込みです。対前年同期比の売上額判断D. I. は▲1.2と、1～3月期から1.1ポイントの小幅改善となりました。

前期比売上額



前年同期比売上額

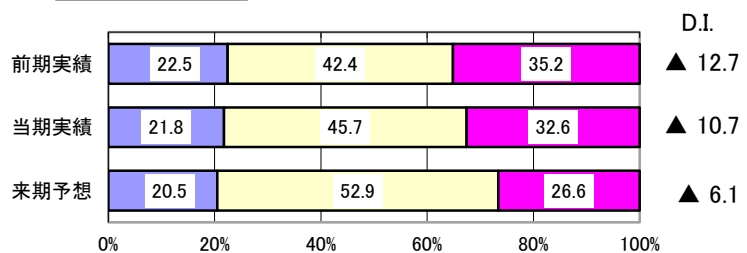


3. 収 益

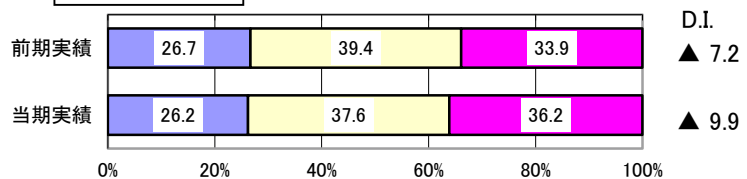
当期 予想
☔ ➔ ☁️

当期の収益判断D. I. は▲10.7と、対前期比2.0ポイントの小幅改善となりました。業種別に見ると製造業、小売業、建設業は改善となりましたが、前期に続き、全業種でマイナス水準となっています。来期予想D. I. は▲6.1と、4.6ポイントの改善となる見込みです。対前年同期比の収益判断D. I. は▲9.9と、1～3月期から2.7ポイントの小幅低下となりました。

前期比収益



前年同期比収益

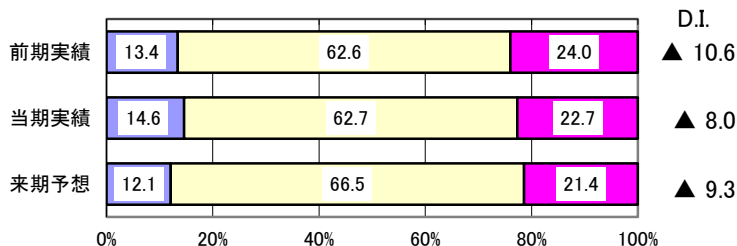


4. 資金繰り

当期 予想
☁️ ➔ ☁️

資金繰り

当期の資金繰り判断D. I. は▲8.0と、対前期比2.6ポイントの小幅改善となりました。業種別に見ると製造業、小売業、建設業は改善となりました。不動産業は低下となりましたが、全業種で唯一プラス水準となりました。来期予想D. I. は▲9.3と、1.3ポイントの小幅低下となる見込みです。

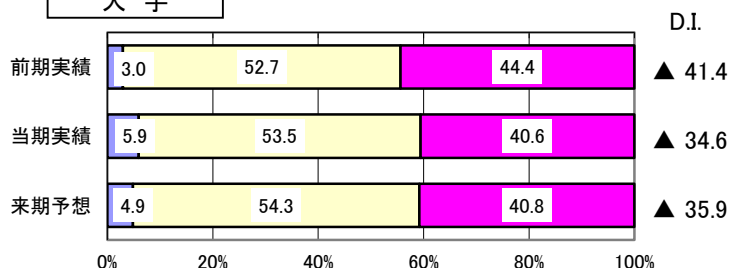


5. 雇 用

当期 予想
☔ ➔ ☔

人 手

当期の雇用判断D. I. (過剰-不足) は▲34.6と、対前期比6.8ポイントの改善となりました。業種別に見ると建設業を除く5業種で改善となりましたが、依然として全業種で厳しい水準となっています。来期予想D. I. は▲35.9と、人手不足感は小幅に強まり厳しい水準が続く見込みです。



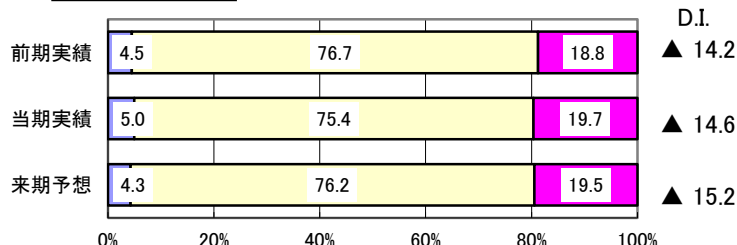
※雇用判断D.I.(過剰-不足) マイナスは人手不足

6. 設備状況

当期 予想
☔ ➔ ☔

設備状況

当期の設備状況判断D. I. は▲14.6と、対前期比0.4ポイントの小幅低下となりました。来期予想D. I. は▲15.2と、不足感はさらに小幅に強まる見込みです。



神奈川県金融経済概況(日本銀行横浜支店:2024年6月)のポイント

【総括判断】 一部に弱めの動きもみられるものの、緩やかに回復している。
(前回判断据え置き)

【主な個別項目の特記事項】

➤生産：横ばい圏内の動きとなっている。(前回判断据え置き)

・輸送機械は回復の動きが一服、はん用・生産用・業務用機械は横ばい圏内の動きとなっている。

➤個人消費：一部に弱めの動きもみられるものの、着実に回復している。(前回判断据え置き)

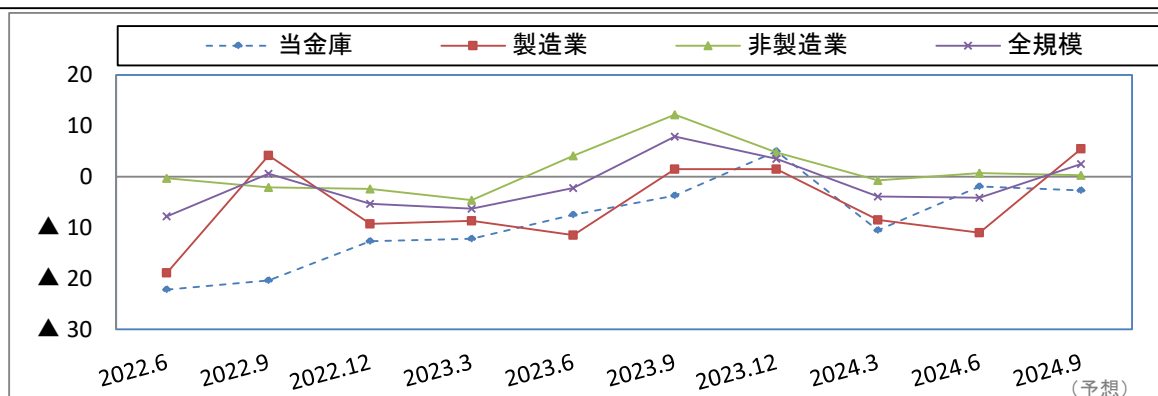
・新車登録台数は、一部自動車メーカーの出荷停止の影響などから、回復の動きが一服している。

➤住宅投資：弱めの動きとなっている。(前回判断据え置き)

・2024年4月の新設住宅着工戸数は、持家、分譲戸建てが減少したものの、分譲マンション、貸家が増加したことから、全体では前年を上回った。

【先行きのリスク要因】 海外経済の一段の減速による外需（輸出）の低迷、コスト高（物価高）等。

法人企業景気予測調査(横浜財務事務所:全規模、製造業、非製造業)、当金庫業況DIの推移



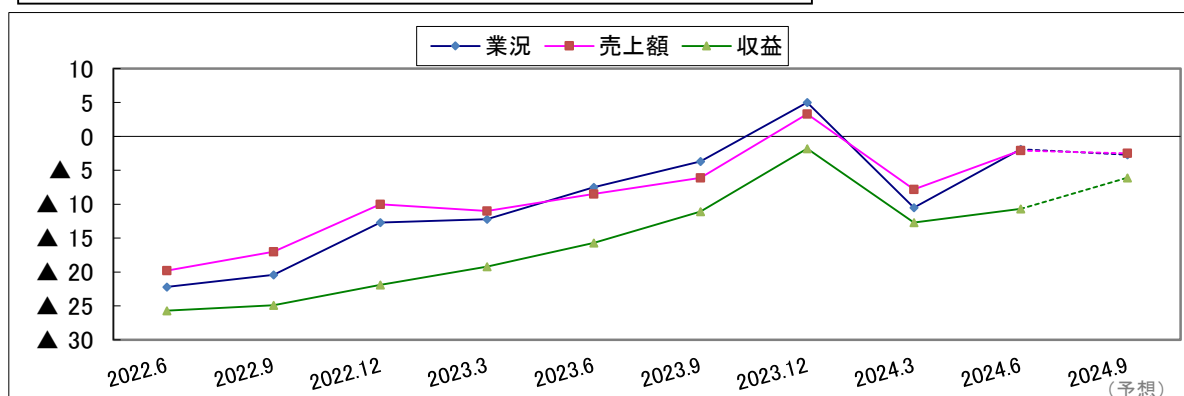
●法人企業景気予測調査 (令和6年4～6月期)

- ・大企業も含めた全規模・全産業の業況判断D. I. は▲4.1と、対前期比0.2ポイント低下し、2四半期連続でマイナスとなりました。自動車会社の認証不正による減産の影響等が響きました。
- ・製造業の業況判断D. I. は▲11.0と、対前期比2.5ポイントの低下となりました。自動車会社の減産影響が完全に解消していないことや、円安による仕入れコストの上昇等が響きました。
- ・非製造業の業況判断D. I. は0.7と、対前期比1.4ポイント改善しプラスに転じました。ボーナス商戦等で小売業で好況感が強まっており、また、行楽期になり運輸業の業況改善も寄与しました。
- ・製造業では情報通信機械器具製造業等が低下に寄与した主な業種で、非製造では小売業、運輸業等が改善に寄与した主な業種となりました。

●当金庫景気動向調査

- ・全業種の業況判断D. I. は▲1.9と、対前期比8.6ポイントの改善となりました。来期は▲2.7と0.8ポイント小幅に低下する見込みです。製造業と非製造業で集計したところ、製造業は▲4.3と、10.1ポイントの改善、非製造業は▲1.3と、8.4ポイントの改善となりました。

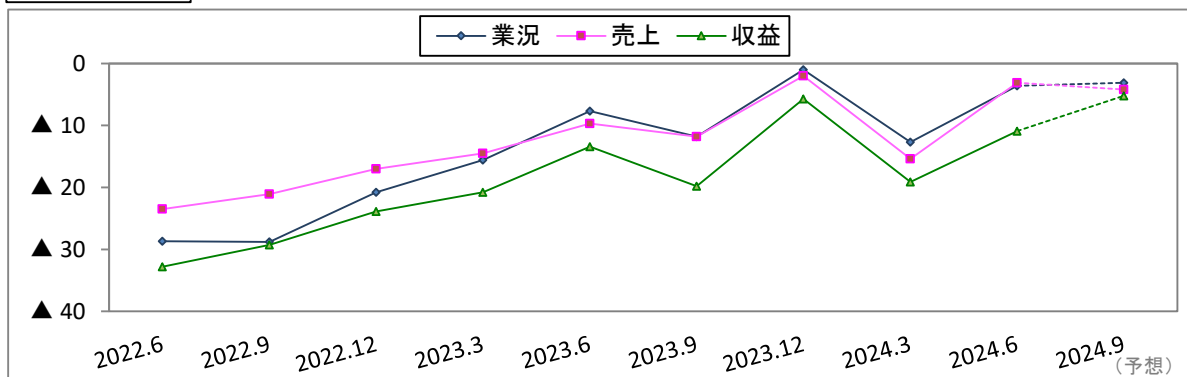
業況・売上額・収益D.I.の推移(全業種総合:当金庫)



2024年4～6月期の業況判断D. I. は▲1.9と、対前期比8.6ポイントの改善となり、前回調査時における今期見通し (▲5.9) を4.0ポイント上回りました。売上額判断D. I. は▲2.1と、対前期比5.7ポイントの改善となり、収益判断D. I. は▲10.7と、対前期比2.0ポイントの小幅改善となりました。「年明け以降、低調が続いていたが、GW明け以降は景況が持ち直しつつある」(製造業)とのコメントがある一方、「顧客先が発注量を控えているので、当分の間、売上等が元に戻ることは難しい」(製造業)、「仕入れの高騰が進み高値で推移しているが、価格へ転嫁できず販売価格に反映できていない」(小売業)、「建設資材の高騰の影響が続いており、利益率は依然として低迷している状態である」(不動産業)等、業況、売上等が今期は改善したものの、現況、先行きを厳しく捉えているコメントが目立ちました。

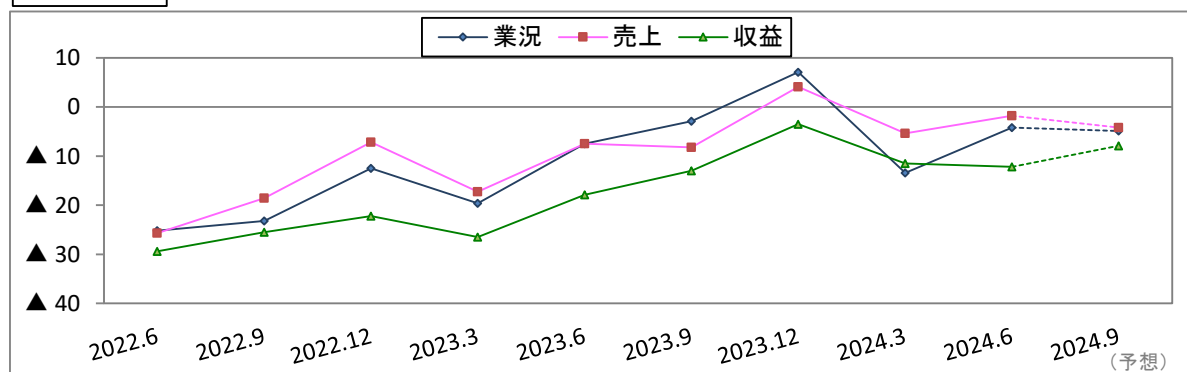
地区別の業況・売上・収益の推移(当金庫)

横須賀地区



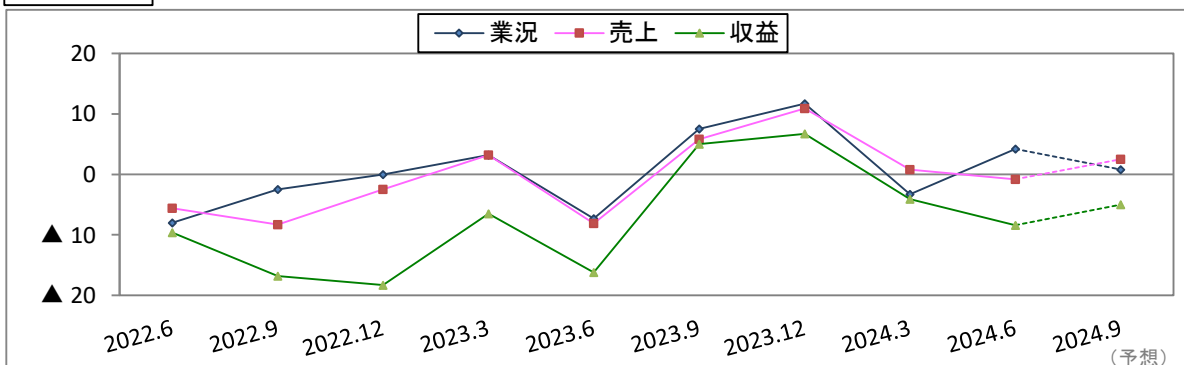
横須賀地区の2024年4～6月期の業況判断D. I. は▲3.6と、9.1ポイントとの改善となり、売上、収益についても改善となりました。来期予想については、業況判断D. I. は▲3.1と、0.5ポイントの小幅改善となり、収益についても改善する見込みです。

横浜地区



横浜地区の2024年4～6月期の業況判断D. I. は▲4.2と、対前期比9.2ポイントの改善となり、売上についても改善となりましたが、収益は低下となりました。来期予想については業況判断D. I. は▲4.9と、0.7ポイント小幅低下となる見込みです。

藤沢地区

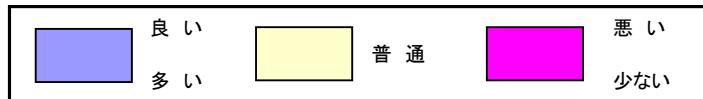


藤沢地区の2024年4～6月期の業況判断D. I. は4.2と、対前期比7.5ポイントの改善となりましたが売上、収益については低下となりました。来期予想については、業況判D. I. は0.8と、3.4ポイントの低下となり、売上、収益については改善を見込みでいます。

製造業

～業況は2期連続マイナス水準も大きく改善、来期さらに改善の見込み～

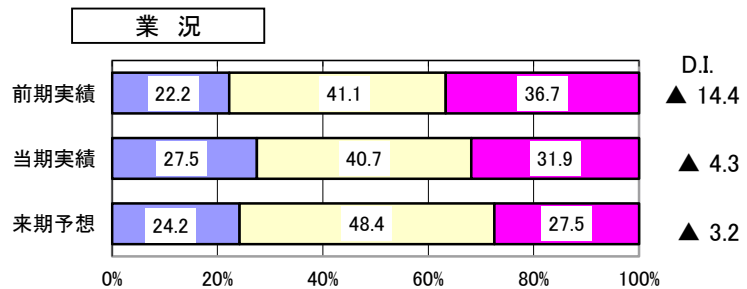
当期実績(2024年4～6月期実績)
来期予想(2024年7～9月期予想)



1. 業 況

当期 予想
→

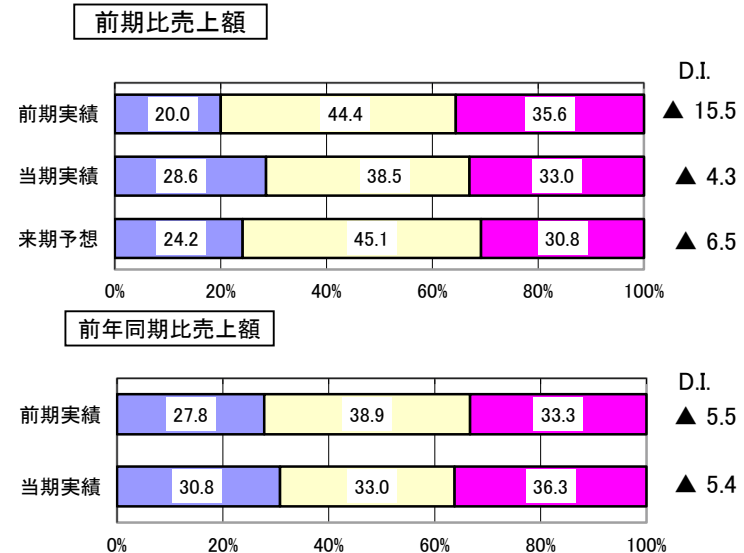
当期の業況判断D. I. は▲4.3と、対前期比10.1ポイントの改善となり、建設業に次いで改善幅の大きい業種となりました。前回調査時における今期見通し(▲14.4)を10.1ポイント上回りました。来期予想については、D. I. は▲3.2と、1.1ポイントの小幅改善となる見込みです。



2. 売上額

当期 予想
→

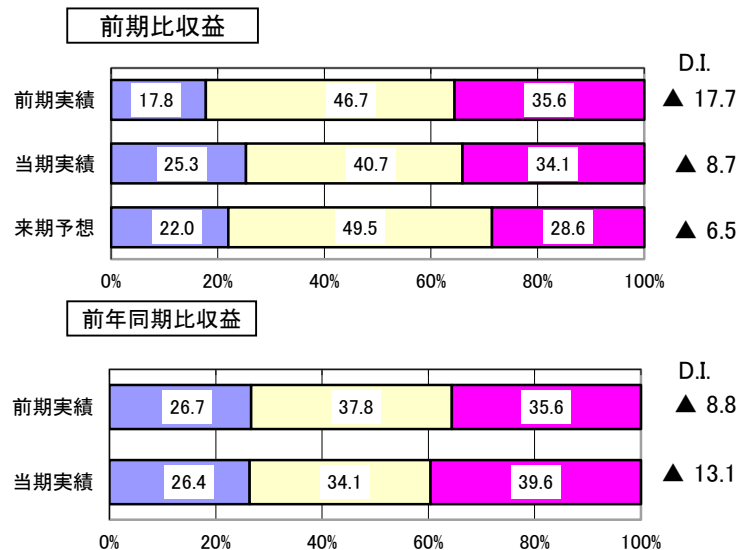
当期の売上額判断D. I. は▲4.3と、対前期比11.2ポイントの改善となりました。来期予想については、D. I. は▲6.5と、2.2ポイントの低下となる見込みです。対前年同期比の売上額判断D. I. は▲5.4と、1～3月期から0.1ポイントの小幅改善となりました。



3. 収 益

当期 予想
→

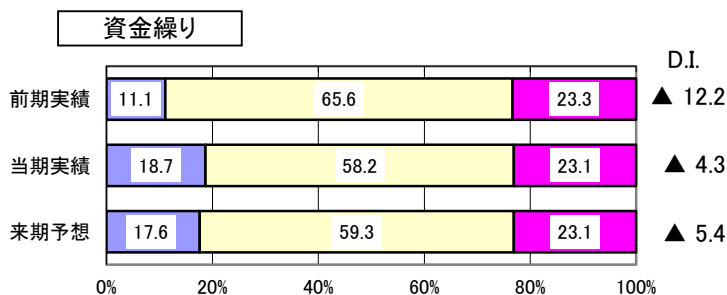
当期の収益判断D. I. は▲8.7と、対前期比9.0ポイントの改善となり、小売業に次いで改善幅の大きな業種となりました。来期予想については、D. I. は▲6.5と、2.2ポイントの小幅改善となる見込みです。対前年同期比の収益判断D. I. は▲13.1と、1～3月期から4.3ポイントの低下となりました。



4. 資金繰り

当期 → 予想

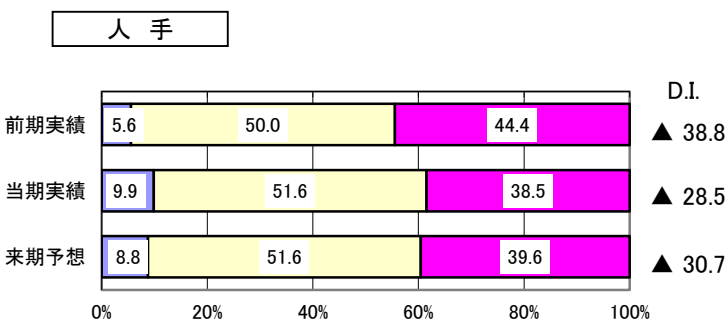
当期の資金繰り判断D. I. は▲4.3と、対前期比7.9ポイントの改善となりました。来期予想については、D. I. は▲5.4と、1.1ポイントの小幅低下となる見込みです。



5. 雇 用

当期 → 予想

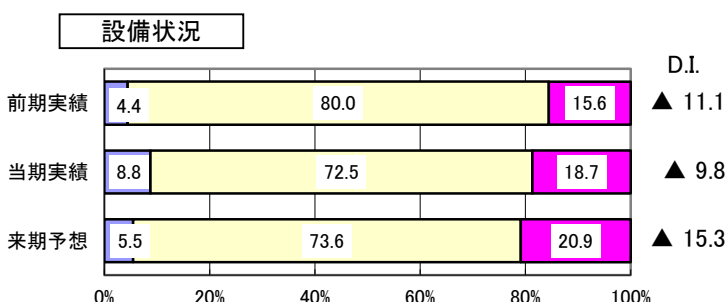
当期の雇用判断D. I. (過剰-不足) は▲28.5と、対前期比10.3ポイントの改善となりました。来期予想については、D. I. は▲30.7と、人手不足感は小幅に強まる見込みです。



6. 設備状況

当期 → 予想

当期の設備状況判断D. I. は▲9.8と、対前期比1.3ポイント小幅改善となりました。来期予想については、D. I. は▲15.3と、不足感は再び強まる見込みです。



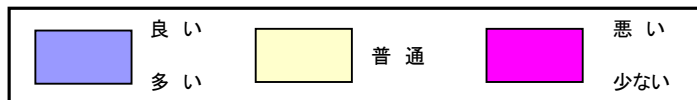
調 査 先 の コ メ ン ト

- 4月は自己資金にて設備投資をしたため、資金繰りがやや苦しい状況である。
- 原材料の高騰が続いており、相変わらず業況は厳しい。
- 大手企業の利益増収や5%の賃上げ実施等に対し、下請企業の厳しさが改善されないのが、今後の景気下降に対応する体制が維持できるか心配である。
- 年明け以降、低調が続いていたがGW明け以降は持ち直しつつある。
- 昨年9月から同業者の製品の製造を行っているため、売上、収益とも上向きで、この1年間は景気にとらわれず上向きに推移している。
- 顧客先が発注量を控えているので当分の間、売上等が元に戻ることは難しい。
- サプライチェーンの問題は落ち着いてきたが生産計画がまだ弱めである。原材料の値上げ依頼が再度きていて収益確保が厳しい。
- 新規設備投資のラインがいよいよ本格稼働する。今後はそれらに伴う経費の増大に対して注意が必要である。蓋を開けたら、利益が出ていなかったのでは本末転倒である。
- 景気の回復は大手とは隔たりがあり、ベースアップ満額回答など実行不可能である。企業間にも格差が生じていると感じる。
- 相変わらず金型業界の動きは鈍く低調である。
- ペーパーレスへの進行が早い。
- M&Aによる会社売却を行った。

卸売業

～業況は改善、売上額、収益は最も良い水準、来期業況はプラス水準の見込み～

当期実績(2024年4～6月期実績)
来期予想(2024年7～9月期予想)

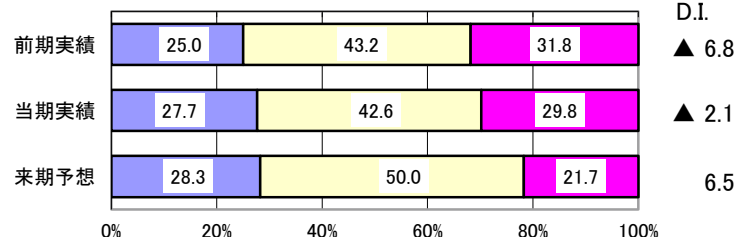


1. 業況

当期 → 予想

当期の業況判断D. I. は▲2.1と、対前期比4.7ポイントの改善となりました。前回調査時における今期見通し(▲6.8)を4.7ポイント上回りました。来期予想については、D. I. は6.5と、8.6ポイントの改善となり、プラス水準に転じ、最も良い水準の業種となる見込みです。

業況

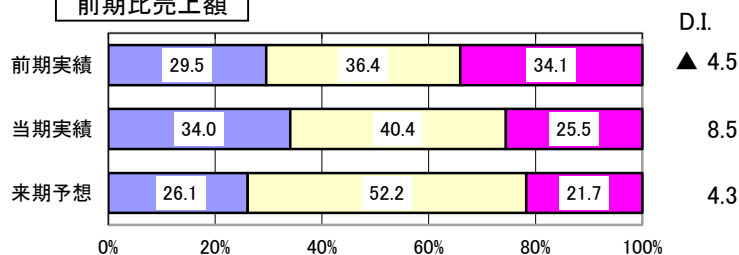


2. 売上額

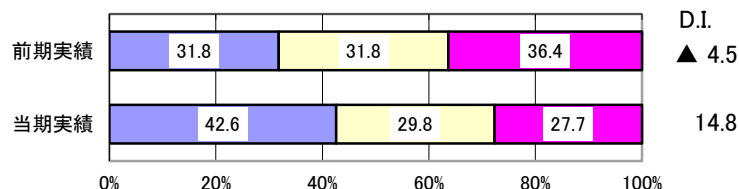
当期 → 予想

当期の売上額判断D. I. は8.5と、対前期比13.0ポイントの改善となり、プラス水準に転じ、最も良い水準の業種となりました。来期予想については、D. I. は4.3と、4.2ポイントの低下となる見込みです。対前年同期比の売上額判断D. I. は14.8と、1～3月期から19.3ポイントの改善となり、プラス水準に転じました。

前期比売上額



前年同期比売上額

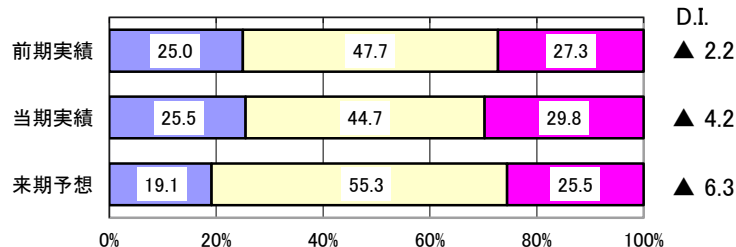


3. 収益

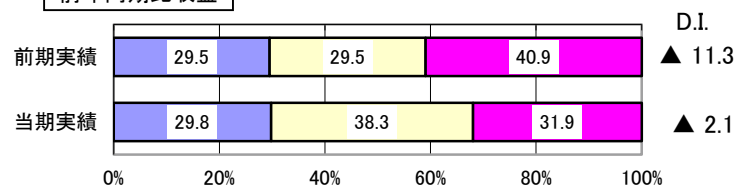
当期 → 予想

当期の収益判断D. I. は▲4.2と、対前期比2.0ポイントの低下となりましたが、最も良い水準の業種となりました。来期予想については、D. I. は▲6.3と、2.1ポイントの小幅低下となる見込みです。対前年同期比の収益判断D. I. は▲2.1と、1～3月期から9.2ポイントの改善となりました。

前期比収益



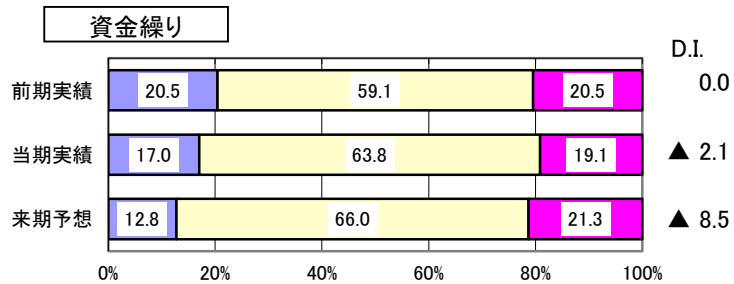
前年同期比収益



4. 資金繰り

当期 予想
☁️ ➔ ☁️

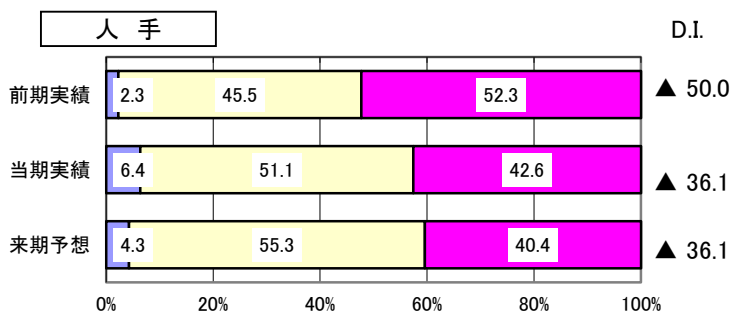
当期の資金繰り判断D. I. は▲2.1と、対前期比2.1ポイントの低下となりました。来期予想については、D. I. は▲8.5と、さらに6.4ポイントの低下をする見込みです。



5. 雇 用

当期 予想
☔ ➔ ☔

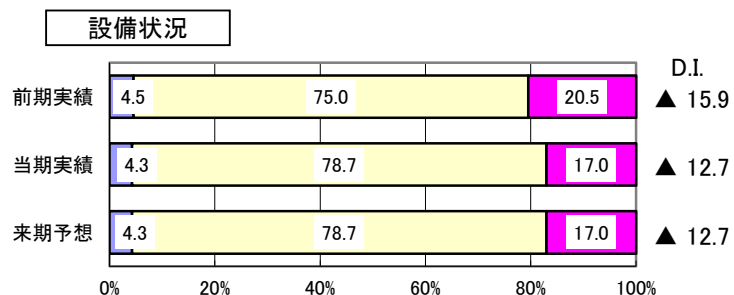
当期の雇用判断D. I. (過剰-不足) は▲36.1と、対前期比13.9ポイントの改善となりました。来期予想については、D. I. は▲36.1と、人手不足感は横ばいとなる見込みです。



6. 設備状況

当期 予想
☔ ➔ ☔

当期の設備状況判断D. I. は▲12.7と、対前期比3.2ポイントの改善となりました。来期予想については、D. I. は▲12.7と、不足感は横ばいとなる見込みです。



調 査 先 の コ メ ン ト

- 顧客が米軍関係で契約額が本国からの入金の場合、円安傾向の中、為替レートによる営業外収支に影響が出る。
- 物価値上げの第2波が6月～8月に予定されていて、その影響がどの程度あるのか未知数である。
- 大口取引を開始しているが原資調達など資金繰りが難儀で苦慮している。
- 最近の気候の不安定さから、売上が左右され動向が掴みにくい。

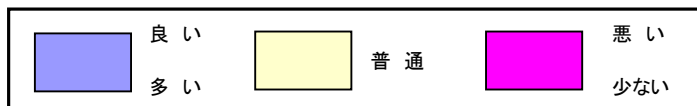
円安の影響: 日本経済に及ぼす波紋

米国では、インフレの兆候に対して政策金利の引上げを続けてきた一方、日本では、緩和的な金融政策を続けているため、日米の金利差が依然として拡大したままとなっています。「円」よりも「米ドル」で運用した方が有利となるため「円」は売られ、2024年4月29日には、円相場が約34年ぶりに一時160円を突破するなど、円安・ドル高が続いています。円安は、自動車や電子機器など国際市場での需要が高い輸出企業にとっては収益向上が期待される反面、輸入コストは上昇します。これにより、エネルギーや原材料は高騰し、企業の生産コストが増加することで、消費者価格にも影響を及ぼします。最終的には、消費者の購買力低下に繋がるのが懸念されるため、為替の今後の動向には注意が必要となります。

小 売 業

～業況は改善、収益の改善幅は最も大きい業種となる～

当期実績(2024年4～6月期実績)
来期予想(2024年7～9月期予想)

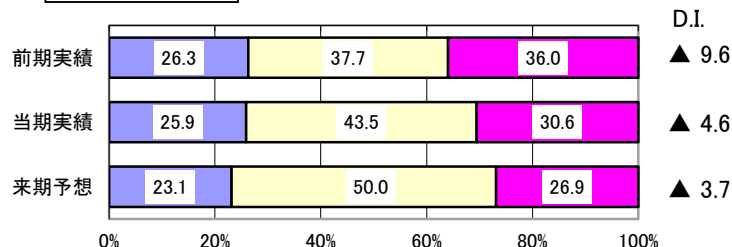


1. 業 況

当期 予想
☁️ ➡️ ☁️

当期の業況判断D. I. は▲4.6と、対前期比5.0ポイントの改善となりました。前回調査時における今期見通し(▲3.5)を1.1ポイント下回りました。来期予想については、D. I. は▲3.7と、さらに0.9ポイントの小幅改善となる見込みです。

業 況

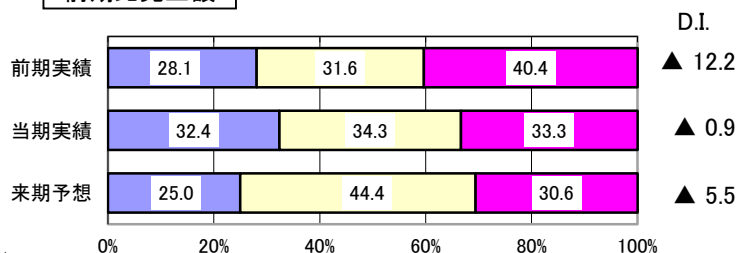


2. 売上 額

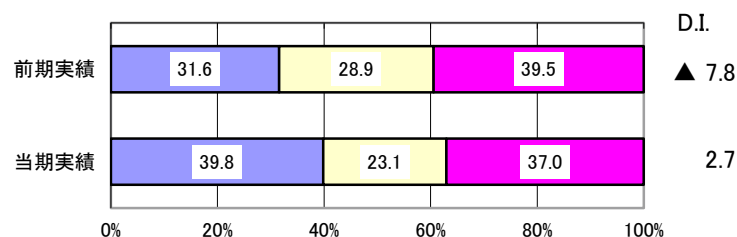
当期 予想
☁️ ➡️ ☁️

当期の売上額判断D. I. は▲0.9と、対前期比11.3ポイントの改善となりました。来期予想については、D. I. は▲5.5と、4.6ポイントの低下となる見込みです。対前年同期比の売上額判断D. I. は2.7と、1～3月期から10.5ポイントの改善となり、プラス水準に転じました。

前期比売上額



前年同期比売上額

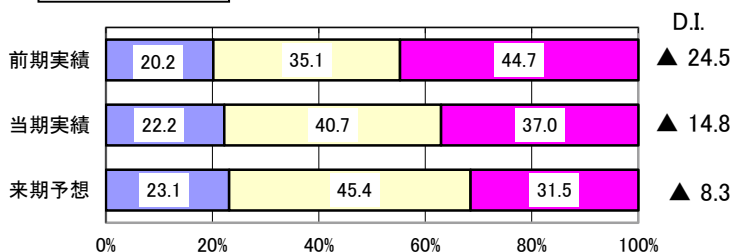


3. 収 益

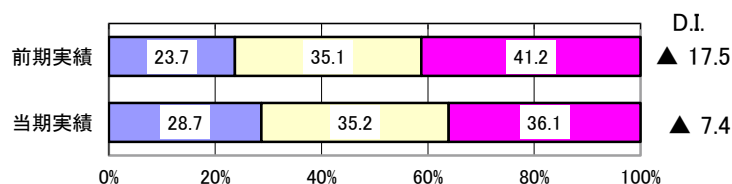
当期 予想
☔ ➡️ ☁️

当期の収益判断D. I. は▲14.8と、対前期比9.7ポイントの改善となり、最も改善幅が大きい業種になりました。来期予想については、D. I. は▲8.3と、さらに6.5ポイントの改善となる見込みです。対前年同期比の収益判断D. I. は▲7.4と、1～3月期から10.1ポイントの改善となりました。

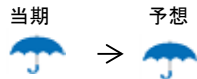
前期比収益



前年同期比収益

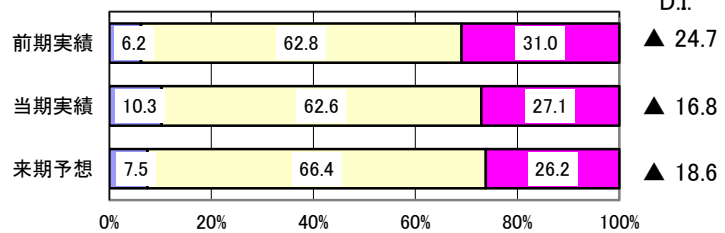


4. 資金繰り

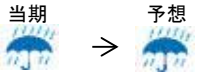


当期の資金繰り判断D. I. は▲16.8と、対前期比7.9ポイントの改善となりましたが、サービス業とともに最も低い水準の業種となりました。来期予想については、D. I. は▲18.6と、1.8ポイントの小幅低下をする見込みです。

資金繰り

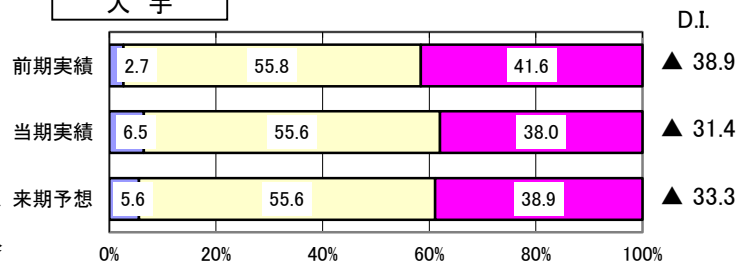


5. 雇用

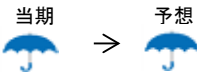


当期の雇用判断D. I. (過剰-不足) は▲31.4と、対前期比7.5ポイントの改善となりました。来期予想については、D. I. は▲33.3と、人手不足感はわずかに強まる見込みです。

人手

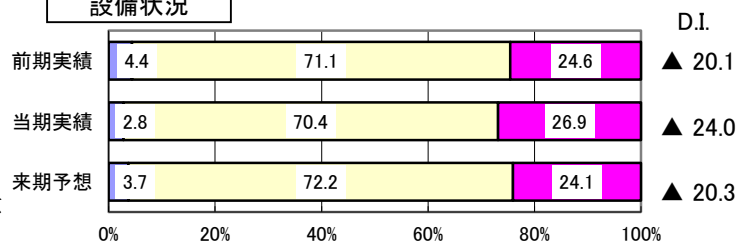


6. 設備状況



当期の設備状況判断D. I. は▲24.0と、対前期比3.9ポイントの低下となりました。来期予想については、D. I. は▲20.3と、不足感は緩和する見込みです。

設備状況



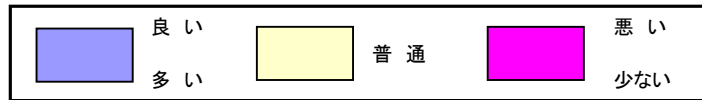
調査先のコメント

- 機械の故障等あり出費が続いている。
- 商品の出荷予定に対してメーカーからの数量の要望が多い。メーカーから将来の売上計画より目先の売上を要求されている状況。
- 円安の影響による材料費等の高騰でコストが増加し厳しい。
- 仕入の高騰が進み高値で推移しているが、価格へ転嫁できず販売価格に反映できていない。
- コロナ感染症が落ち着いて以降、人流が戻っているのを実感する。しかし、夜間の外出時の帰宅時間が早まったり、生活習慣が変化している。また、円安で値上りも感じるようになり、ライフスタイルの変化と共にこれからをしっかりと設計していくことが大切だと考える。
- 5月以降、2013年並みに売上が戻ってきている。スクラップ&ビルドを実行し、不採算部門を損切りしたためか、急激に資金が増えたので設備投資に回していきたい。
- 学生アルバイトを募集しているが、応募が減ってきている。人手を補充しきれず、やや不足している状況なので求人費を上げざるを得ない。
- スーパーと個人店の価格の差が大きすぎて売行きが良くない。

サービス業

～業況は改善も最も低い水準に、来期も低下する見込み～

当期実績(2024年4～6月期実績)
来期予想(2024年7～9月期予想)

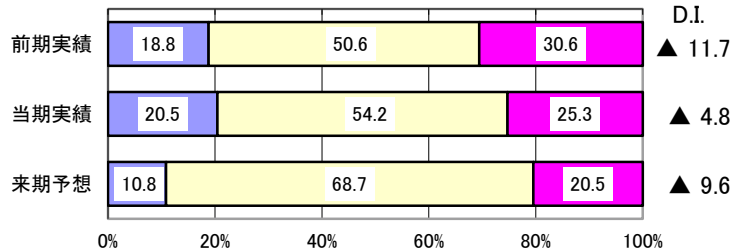


1. 業 況

当期 予想
☁️ ➡️ ☁️

当期の業況判断D. I. は▲4.8と、対前期比6.9ポイント改善しましたが、最も低い水準の業種となりました。前回調査時における今期見通し(▲1.1)を3.7ポイント下回りました。来期予想については、D. I. は▲9.6と4.8ポイントの低下となる見込みです。

業 況

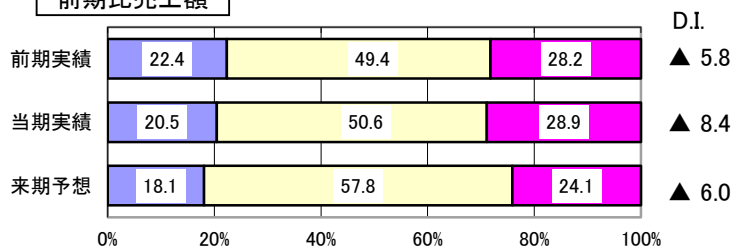


2. 売上額

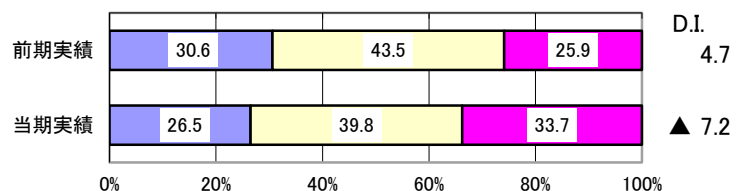
当期 予想
☁️ ➡️ ☁️

当期の売上額判断D. I. は▲8.4と、対前期比2.6ポイントの小幅低下となりました。来期予想については、D. I. は▲6.0と、2.4ポイントの小幅改善となる見込みです。対前年同期比の売上額判断D. I. は▲7.2と、1～3月期から11.9ポイントの低下となり、マイナス水準に転じました。

前期比売上額



前年同期比売上額

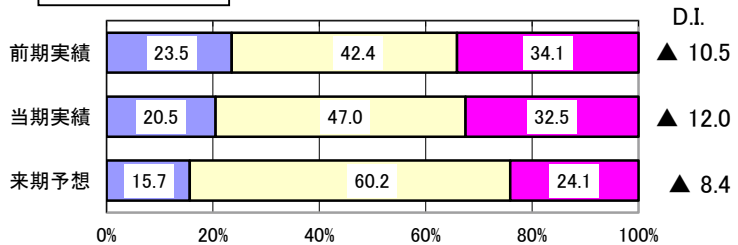


3. 収 益

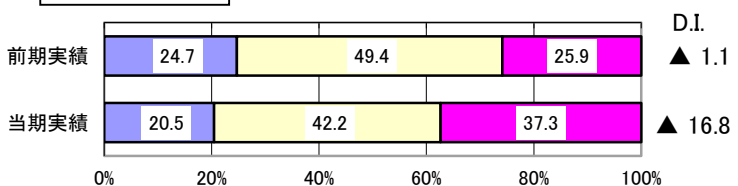
当期 予想
☔ ➡️ ☁️

当期の収益判断D. I. は▲12.0と、対前期比1.5ポイントの小幅低下となりました。来期予想については、D. I. は▲8.4と、3.6ポイントの改善となる見込みです。対前年同期比の収益判断D. I. は、▲16.8と、1～3月期から15.7ポイントの低下となりました。

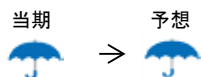
前期比収益



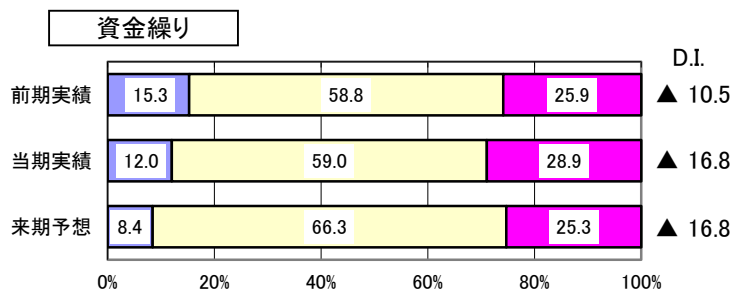
前年同期比収益



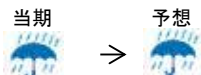
4. 資金繰り



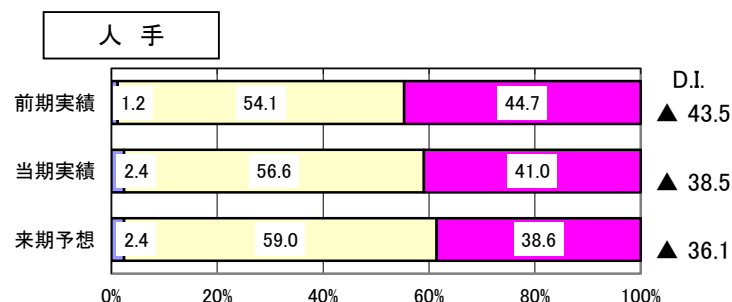
当期の資金繰り判断D. I. は▲16.8と、対前期比6.3ポイントの低下となり、小売業とともに、最も低い水準の業種となりました。来期予想については、D. I. は▲16.8と、横ばいとなる見込みです。



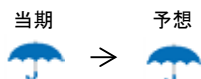
5. 雇用



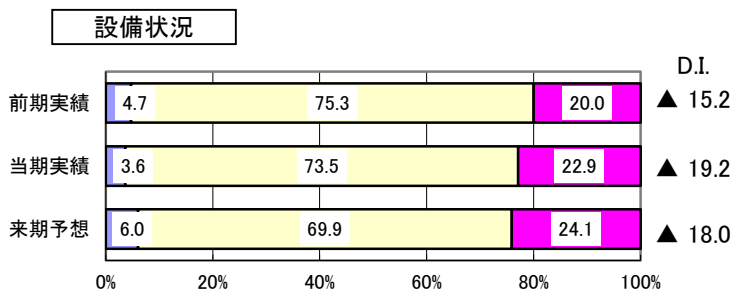
当期の雇用判断D. I. (過剰-不足) は▲38.5と、対前期比5.0ポイントの改善となりました。来期予想については、D. I. は▲36.1と、人手不足感はわずかに緩和されますが、厳しい水準が続く見込みです。



6. 設備状況



当期の設備状況判断D. I. は▲19.2と、対前期比4.0ポイントの低下となりました。来期予想については、D. I. は▲18.0と不足感はわずかに緩和する見込みです。



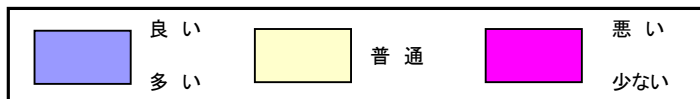
調査先のコメント

- 円安による影響が続いている。
- 2024年、運送業の労働時間の短縮による厳しい現状の中で、給与（ベースアップ）を改定するのに社会保険労務士と相談しながら頑張っている。
- 車両を発注してから1年6カ月経っているが、未だに発注している車両の納期時期が不明で業者から約2年かかると言われている。
- 食料品を含め物価が更に上昇傾向にあるので、エンドユーザーの購入意欲が下がり物流トン数が減ると想定できることから、その時の市場（商品）として何が最良かを再度考察する必要がある。

建設業

～業況、設備は最も良い水準に、人手は厳しい水準続く見込み～

当期実績(2024年4～6月期実績)
来期予想(2024年7～9月期予想)

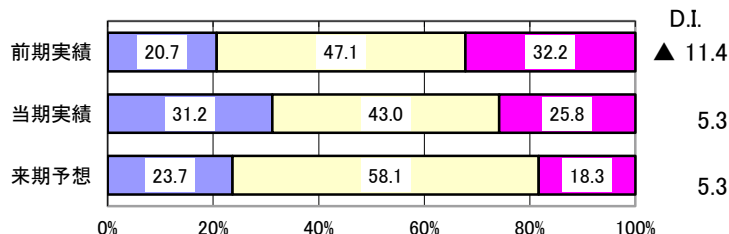


1. 業況

当期 予想
☁️ ➔ ☁️

当期の業況判断D.I.は5.3と、対前期比16.7ポイントの改善となり、プラス水準に転じ、改善幅、業況D.I.ともに最も良い水準の業種となりました。前回調査時における今期見通し(▲3.4)を8.7ポイント上回りました。来期予想については、D.I.は5.3と横ばいとなる見込みです。

業況

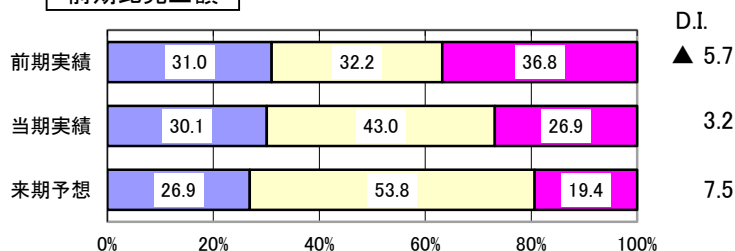


2. 売上額

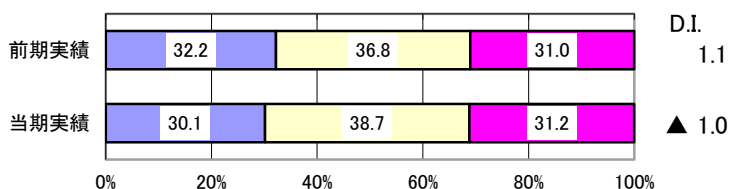
当期 予想
☁️ ➔ ☁️

当期の売上額判断D.I.は3.2と、対前期比8.9ポイントの改善となり、業況同様、売上額もプラス水準に転じました。来期予想については、D.I.は7.5と、4.3ポイントさらに改善し、来期も最も良い水準の業種となる見込みです。前年同期比の売上額判断D.I.は▲1.0と、1～3月期から2.1ポイントの小幅低下となり、マイナス水準に転じました。

前期比売上額



前年同期比売上額

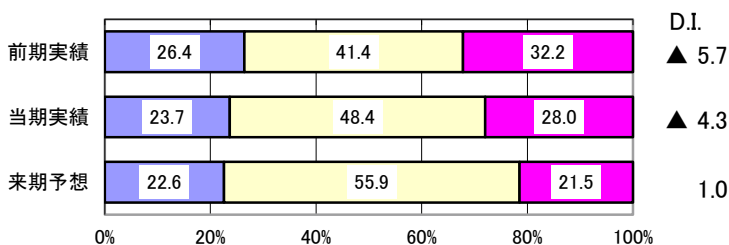


3. 収益

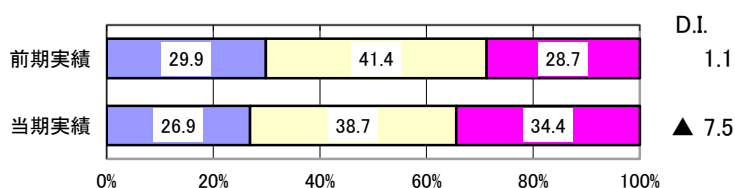
当期 予想
☁️ ➔ ☁️

当期の収益判断D.I.は▲4.3と、対前期比1.4ポイントの小幅改善となりました。来期予想については、D.I.は1.0と5.3ポイントの改善となり、プラス水準に転じ、最も良い水準の業種となる見込みです。対前年同期比の収益判断D.I.は▲7.5と、1～3月期から8.6ポイントの低下となり、マイナス水準に転じました。

前期比収益



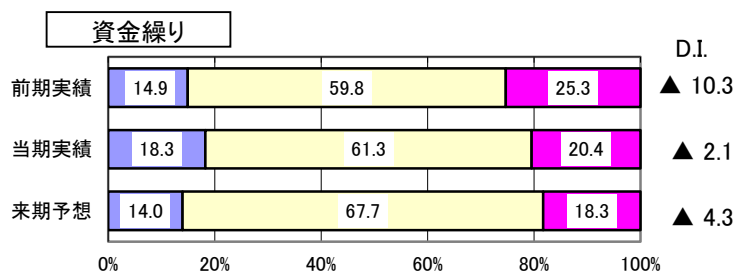
前年同期比収益



4. 資金繰り

当期 予想
☁️ ➔ ☁️

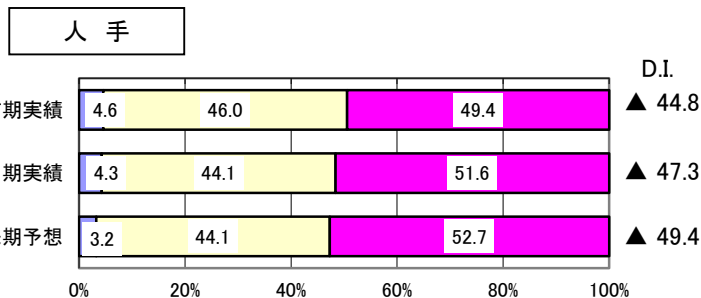
当期の資金繰り判断D. I. は▲2.1と、対前期比8.2ポイントの改善となり、最も改善幅の大きな業種となりました。来期予想については、D. I. は▲4.3と、2.2ポイントの小幅低下となる見込みです。



5. 雇 用

当期 予想
☔️ ➔ ☔️

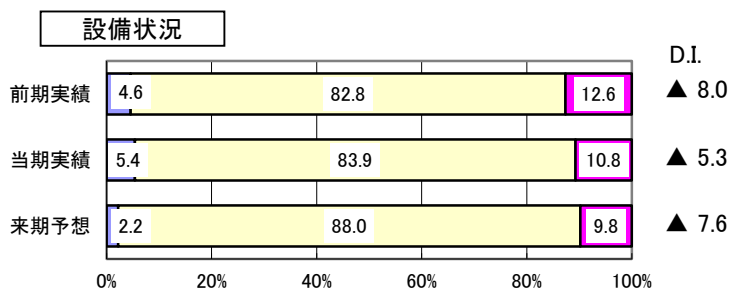
当期の雇用判断D. I. (過剰-不足) は▲47.3と、対前期比2.5ポイントの低下となり、最も厳しい水準の業種となりました。来期予想については、D. I. は▲49.4と、人手不足感はさらに強まり、厳しい水準が続く見込みです。



6. 設備状況

当期 予想
☁️ ➔ ☁️

当期の設備状況判断D. I. は▲5.3と、対前期比2.7ポイントの改善となりました。来期予想については、D. I. は▲7.6と、不足感は再び強まる見込みです。



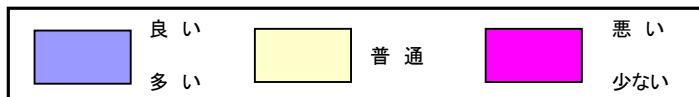
調 査 先 の コ メ ン ト

- 原材料、人件費が高騰しているため売上が伸びても利益が残りにくい。下請企業への支払い（買掛金）サイトが短くなっている分、入金（売掛金）サイトが変わらないので現預金が減っている。
- 4月より建設業、運送業の働き方改革が本格始動し残業時間の上限規制も厳守しなければ罰則が適用される。資機材の輸送費の15～20%上昇を要求されているが、価格転嫁が難しく工事原価が嵩む一方である。
- 郊外型マンションの発注が一段落して2025年度は減少に転ずる予想。これに伴い改修系の物件に営業を転ずる予定である。

不動産業

～業況は今期改善するも、来期は業況、売上額、収益ともに最も低い水準に～

当期実績(2024年4～6月期実績)
来期予想(2024年7～9月期予想)

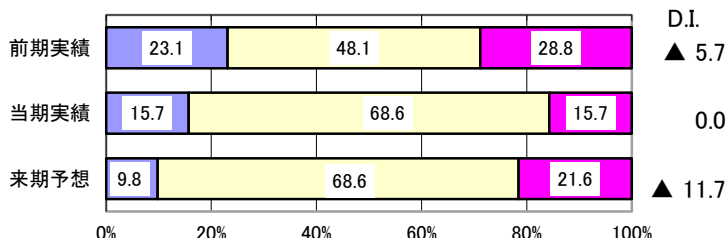


1. 業況

当期 予想
☁️ ➔ ☔️

当期の業況判断D. I. は0.0と、対前期比5.7ポイントの改善となり、建設業に次いで良い水準の業種となりました。前回調査時における今期見通し(▲7.6)を7.6ポイント上回りました。来期予想についてはD. I. は▲11.7と、11.7ポイントの低下となり、最も低い水準の業種となる見込みです。

業況

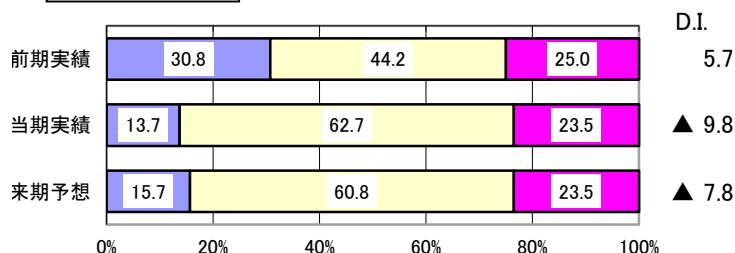


2. 売上額

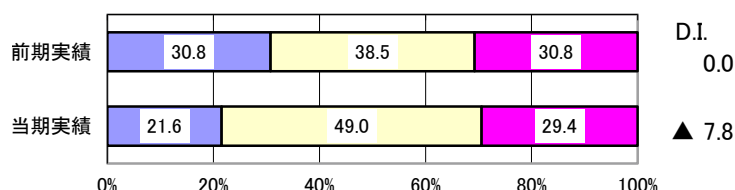
当期 予想
☁️ ➔ ☁️

当期の売上額判断D. I. は▲9.8と、対前期比15.5ポイントの低下となり、マイナス水準に転じ、最も低い水準の業種となりました。来期予想については、D. I. は▲7.8と、2.0ポイントの小幅改善となる見込みです。前年同期比の売上額判断D. I. は▲7.8と、1～3月期から7.8ポイントの低下となりました。

前期比売上額



前年同期比売上額

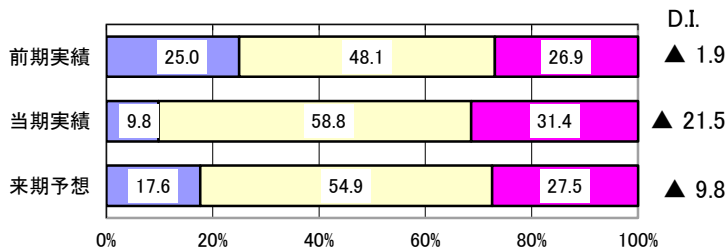


3. 収益

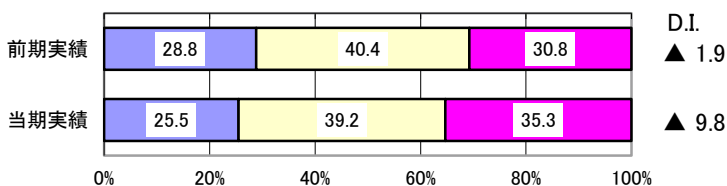
当期 予想
☔️ ➔ ☁️

当期の収益判断D. I. は▲21.5と、対前期比19.6ポイントの低下となり、厳しい水準の業種となりました。来期予想については、D. I. は▲9.8と、11.7ポイントの改善となる見込みです。対前年同期比の収益判断D. I. は▲9.8と、1～3月期から7.9ポイントの低下となりました。

前期比収益



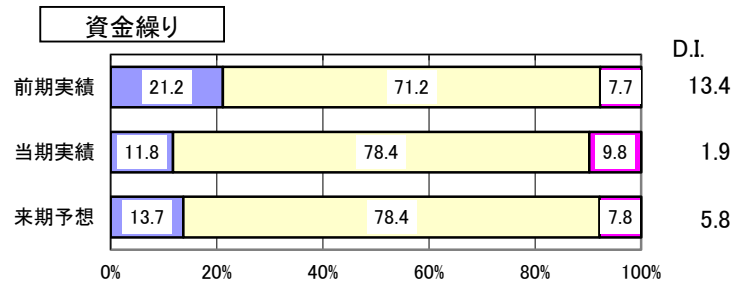
前年同期比収益



4. 資金繰り

当期 予想
☁ → ☁

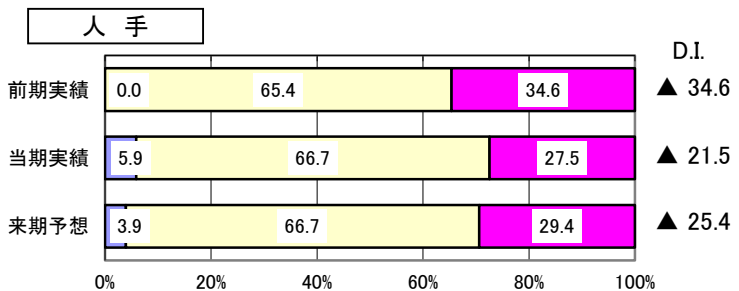
当期の資金繰り判断D. I. は1.9と、対前期比11.5ポイントの低下となりましたが、最も良い水準の業種となりました。来期予想については、D. I. は5.8と、3.9ポイント改善し、今期同様、最も良い水準の業種となる見込みです。



5. 雇 用

当期 予想
☔ → ☔

当期の雇用判断D. I. (過剰－不足) は▲21.5と、対前期比13.1ポイントの改善となり、資金繰り同様、最も良い水準の業種となりました。来期予想については、D. I. は▲25.4と、人手不足感は強まる見込みです。



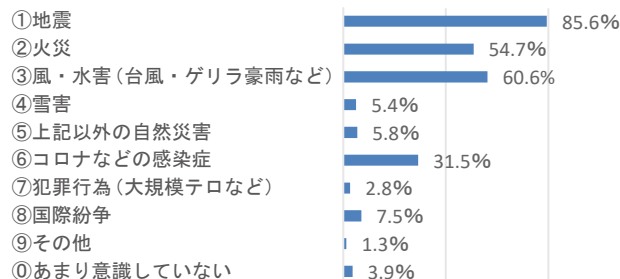
調 査 先 の コ メ ン ト

- 物件による販売状況に差が出ており、販売価格の二極分化の傾向がある。建築資材の値上がりが継続しており収益性の向上が見込めない。
- 建築資材の高騰の影響が続いており、その影響で利益率は依然として低迷している状態である。
- 4月以降、不動産及び建築（特に新築物件）工事関係は徐々に減少傾向にあり、業界全般で悪くなっていると感じる。需要者の心理が動き出す時期まで無理せず待機しながら準備する時と思われる。
- 物件の購入照会の件数が減ってきている感じがする。

特別調査 ……「中小企業における災害等への対応について」

1.災害に対する意識について。

普段どのような災害を意識しているかについては、①「地震」との回答が85.6%と最も多く、次いで③「風・水害（台風・ゲリラ豪雨など）」が60.6%、②「火災」が54.7%と続いた。⑥「コロナなどの感染症」との回答も31.5%と比較的多かった。一方、⑩「あまり意識していない」との回答も3.9%あった。（最大3つまで複数回答）



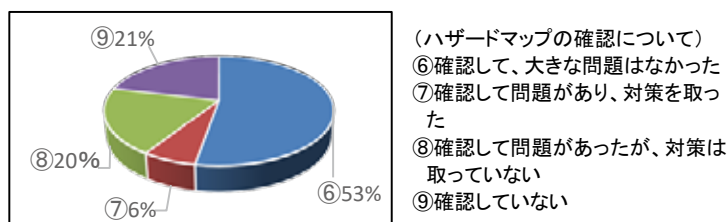
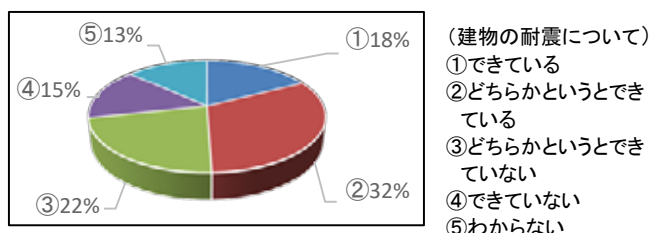
2.現在の災害への備えについて、また、実際に災害にあった際の自社の備えの評価について。

現在の災害への備えについては、「できている」、「どちらかというときできている」との回答が合わせて43.8%、「どちらかというときできていない」、「できていない」との回答が合わせて56.1%であり、備えがあまり進んでいない状況がうかがえる結果となった。実際に災害にあった際の自社の備えの評価については、「災害にあったことがない」の回答を除き、「できていた」、「どちらかというときできていた」との回答が合わせて41.1%、「どちらかというときできていなかった」、「できていなかった」との回答が合わせて58.9%であり、現在の災害への備えについての回答と同様の結果であった。

3.事業継続にかかる保険（財産補償、休業補償）の加入状況について。

事業継続にかかる保険については、加入している会社の割合は全体のおよそ8割であった。加入している場合の補償内容については、「財産補償のみ加入」との回答が53.6%と最も多かった。「財産補償、休業補償の両方に加入」が36.7%、「休業補償のみ加入」が9.7%であった。保険に加入していない場合の理由については、「自社には必要ない（災害時の損失額が低いなど）」との回答が27.3%と最も多かった。次いで、「災害保険についてよくわからない」が25.0%、「保険料が高い」が21.6%と続いた。

4.使用している建物の耐震、および、自社所在地周辺のハザードマップの確認状況について。



建物の耐震については、①「できている」、②「どちらかというときできている」との回答が合わせて50%で、③「どちらかというときできていない」、④「できていない」の回答の合計37%を上回った。⑤「わからない」との回答も13%あった。ハザードマップの確認状況については、⑥「確認して、大きな問題はなかった」が53%、⑦「確認して問題があり、対策を取った」との回答が6%と合わせて約60%を占め、⑧「確認して問題があったが、対策は取っていない」との回答の20%を大きく上回った。一方、⑨「確認していない」との回答が21%あった。

5.現預金の保有状況（災害時への対応）について、また、災害対策金融支援の利用状況について。

災害時の対応として、現預金をどの程度保有しているかについては、「売上の1～3か月分」が33.0%と最も多かった。次いで「売上の3か月以上」が23.1%、「売上の2週間分～1か月分」が15.1%と続いた。一方「ほとんど保有していない」との回答も16.4%あった。災害対策金融支援を受けたことがあるかとの問いについては、「コロナ禍の時に受けたことがある」との回答が54.4%と最も多かった。一方、「受けたことがない」との回答も41.3%あった。

学校法人 敬愛石川学園

～青い鳥幼稚園～

理 事	長：石川 太郎
園 長	長：石川 純一郎
所 在	地：横須賀市三春町 2-6
設 立	立：昭和 26 年 6 月

青い鳥幼稚園を経営する学校法人 敬愛石川学園の園長である石川 純一郎氏にお話を聞かせていただきました。



ー設立ー

初代園長石川小太郎は、昭和3年「横須賀高等工学校」を設立、多数の専門家を輩出してきました。終戦を機に「緑会」を結成、新しい日本の教育のありかが主な議題でした。教育者、宗教人、医師、占領軍基地内小学校長、軍人などが、彼の書斎に集まりました。そして、「幼児教育こそが、人格形成の根幹を成し、人の、そして社会の行く末を決める」と、結論を出したのです。そして、「青い鳥幼稚園」が誕生しました。

ー現況ー

2024年3月、青い鳥幼稚園第72回卒園証書授与式が執り行われ、6,208番目の卒園者を小学校に送ることができました。壇上で一人ひとりが未来の夢や希望を述べる中に、青い鳥幼稚園の先生になるという言葉は、毎年のこととは言え、先生たちの涙を誘っていました。

ー卒園生たちー

卒園生たちは胸のマークの色から「あおぐみさん」と呼ばれて、1年下の「あかぐみさん」、その下の「ももぐみさん」の尊敬と憧れの集団だっ

～家族がつなぐいのちのバトン～

たのです。歌の会、運動会、作品展では常に刮目の技を見せ、なにより威張ったりしないで一緒に遊んでくれた。嬉しかった。憧れた。

ー新学期、新しいあおぐみはー

恩恵は憧れとなって学習され、以前の「あかぐみさん」は誇りと自信に溢れた青い鳥幼稚園のあの「あおぐみさん」になって、後輩の憧れの集団になっています。深く愛された人格は、深く愛する人になるのでしょうか。おいしい味は作った人から食べた人へと広がっていきます。

ー少子化についてー

住人が流出し、出産が減り、人口が、殊に子供の数が減少しています。人類全体の文化水準の進歩の様相が変わろうとしています。生まれてくる子供が少なければ、一人ひとりが享受する利益、特に社会から受ける教育の機会や質が緻密に、そして丁寧になっていくことが期待されます。一人ひとりに特性に沿った教育が施され、教える側も相手に沿った緻密な方策が選択でき、教える側の負担も軽減されて専門性の高い教育が期待できるようになります。一人ひとりが宝石の原石となって、新しい世界で輝くことが予見されます。

ー放課後ー

青い鳥幼稚園には、今も数多くの優れた教諭が集まっています。先生達は一日の出来事を熱く、熱心に語ります。園児一人ひとりの名前や遊びの様子、全てのことが全ての先生に共有されています。青い鳥幼稚園は以前も、今も、そして未来も変わらない宝石工場です。

ー展望ー

園舎の新築、そして「幼稚園」から「幼保連携型認定こども園」への移行と、新しい命の為に全力を注いで進んでいきます。



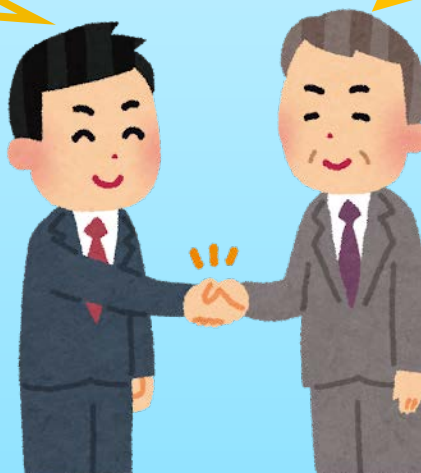
園長 石川 純一郎

当社がサポートします!(^^)!

- ・幹部候補、後継者人材紹介
- ・若手人材の採用支援
- ・家督承継
- ・婚活サポート
- ・事業承継

REVICareer
レビキャリ

 **官民ジョブサイト**
内閣府 国家公務員経験者の求人・求職者情報サイト



 **かながわ信用金庫**
かなしん トータルサービス



 **HUREX**
human resource experts

本レポートは、情報提供のみを目的とした標記時点における当金庫の考え方を示したものです。施策実施等に関する最終決定は、ご自身の判断でなされますようお願いします。また、この資料は、当金庫が信頼できると考える情報源から得た各種データに基づいて作成されていますが、その情報の正確性および完全性について当金庫が保証するものではありません。

発行 かながわ信用金庫
住所 〒238-0004 横須賀市小川町7番地
TEL 046-826-1515(平日9:00~17:00)
編集 株式会社 かなしんトータルサービス
住所 〒235-0023 横浜市磯子区森1丁目10番10号
TEL 045-263-6363(平日9:00~17:00)

 **かながわ信用金庫**
かなしん